

令和元年度 部局自己評価報告書 (24：病院)

Ⅱ 平成 30 年度の特筆すべき取組／令和元年度の計画

【平成 30 年度実績】

1. 医薬品・医療機器開発に向けた体制強化

No.53 ①-5 医薬品・医療機器開発に向けた体制強化

実績報告

【教育・研究面の観点】【診療面の観点】

・医薬品・医療機器開発に基づく成果の実用化に向け開発シーズのフェーズ管理を着実に実行し、計 2 件のステージアップを行った。(シーズ A(関連特許出願を目指す基礎研究シーズ)からシーズ B(非臨床 POC(Proof of Concept)取得及び治験届提出を目指すシーズ)へのステージアップ 1 件、シーズ A からシーズ C(治験または先進医療を実施し、ヒト POC 取得を目指すシーズ)へのステージアップ 1 件。)(第 3 期中期目標期間中に 10 件以上を目標としており、今回の 2 件のステージアップで平成 28 年からの累計で 10 件となり、目標を達成している。)

・臨床研究法に対応した「テンプレート(プロトコル、説明・同意文書)」、「臨床研究ピアレビューチェックシート」、「認定臨床研究審査委員会チェックシート」を新規作成し、研究者、ピアレビュー委員会、認定委員会に提供し、使用を開始した。

・多国籍企業である株式会社フィリップス・ジャパンと互いの強みを持つ資源を活用しながら、デジタル(ICT)を用いて「人々の行動変容」にフォーカスし、健康・予防・医療への新たな価値創造に向けた包括的提携に関する協定を締結した。世界でも類を見ない全診療科で企業開発研究員がシステムティックに臨床現場観察が可能な仕組み(アカデミック・サイエンス・ユニット)にデザイン思考の活用による相乗効果を出しながら、病院臨床研究推進センター内に両者の協働を促進する Co-Creation Satellite を設置し、ベンガルールのフィリップスイノベーションキャンパスなど同社のグローバルリソースと協働し、スピードと質を兼ね備えたあたらしい国際協働、“ものづくりの再定義”を推進している。

(株式会社フィリップス・ジャパンとの包括提携に関する概要等については、添付「53【フィリップスジャパンとの包括提携参考資料】.pdf」のとおり。)

[53【フィリップスジャパンとの包括提携参考資料】.pdf](#)

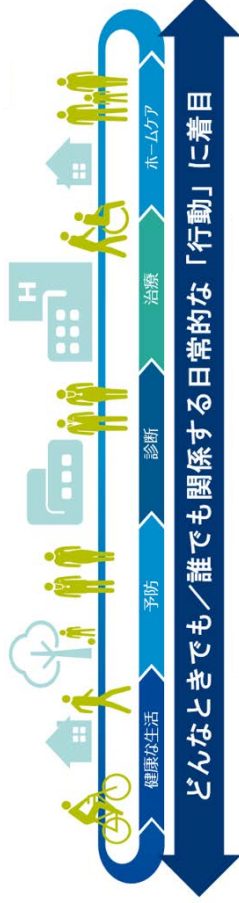
デジタルICTを用いた「人々の行動変容」に関するヘルスケア共同研究

東北大学：課題先進地域 インフラ・実績

フイリッパスジャパン：リソース 国際協働

強みと方向性が一致。東北大学病院を拠点に解決すべき課題を設定。グローバル展開までのデザインをCCS/CCCで行い、ベンガルール(インド)イノベーションセンターをはじめグローバルリソースを活用し事業化。

経緯・内容：2015-16年にASUに参加、2018年から再開。今後は健康的な生活からホームケアまでの幅広い領域においてデザイン思考を用いて一人ひとりの「行動変容」を促すことで、現場に根差したソリューションを創出し、日本からグローバルへ発信する



本学にとっての協業価値:フイリッパスの

- ・ イノベーション創出方法の活用
- ・ 人材活用によるアイデア発想
- ・ グローバルイノベーション拠点活用

による世界水準の環境でのイノベーション創出、本学発のイノベーションのグローバル展開の推進

取り組みテーマ

- ・ 口腔ケアからはじまり、つよみ、ハードルの高さを考慮し、睡眠、食事、運動、「行動・健康・医療」データの統合的な活用に順次取り組み



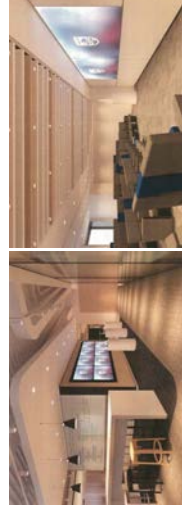
2018年6月26日プレス会見

報道 16紙 168 online記事

(2018年7月15日現在)



Co Creation Satellite (CCS)



Co Creation Center (CCC)

2. 社会の要請に応える医療人の養成及び病院機能の強化

No.51 ①-3 社会の要請に応える医療人の養成及び病院機能の強化

実績報告

【教育・研究面の観点】

・将来、宮城県の医療に貢献を考える宮城県内の初期及び後期研修医を対象に、米国の医療現場に触れ、日本と米国の医療政策、教育体制、文化の違いを実感し、よりグローバルな視点から医療を捉えられる医師を養成することを目指して、宮城県医師育成機構との共催による短期海外研修(ニューヨーク)を福島県及び岩手県と引き続き合同で実施した(4月(宮城県6名、福島県3名、岩手県3名)、12月(宮城県6名、福島県3名、岩手県3名))。平成24年の本事業開始当初より、卒後研修センター専任教員が参加者を引率し、研修施設に参加者と同行して米国側担当者と同研修内容の綿密な打合せを行い、より有意義な研修となるよう毎回検討を重ねている。

・クリニカル・スキルスラボは、平成30年度1,312件17,396名に利用されており、学内の学生教育においては医学科学生延べ7,194名、保健学科学生延べ549名の教育に利用された。大病院内の医療従事者の研修では、延べ2,855名に利用された。また、薬学部教育や災害科学国際研究所の職員に対する心肺蘇生法研修等、キャンパスを超えた教育を提供している。オープンキャンパス等の市民が参加する行事においても、本スキルスラボは医療体験の企画に利用されており、事後アンケートからは、回答者の90%以上がスキルスラボでの企画に参加して良かったと回答した。スキルスラボは、大学の施設でありながら、地域の医療従事者等に対しても利用を開放している東北では唯一の施設であり、学外の医療従事者等の利用は6,297名であった(グラフ:【東北大学クリニカル・スキルスラボの利用実績】参照)。地域の医療機関の新人研修や専門領域別の講習会等が行われ、全国から医療従事者が参加し、医療技能の向上に貢献した。特に、少子高齢化により在宅医療や福祉の重要性が高まる中、在宅医療・福祉に携わる専門職への教育も頻回に実施した。スキルスラボは、医療現場の外で教育を提供していることから、医療従事者のみならず、教育職及び保育職等の非医療従事者への医療教育や、中学生への動機付け学習、海外からは中国の外科医13名、アジア圏5ヶ国の医学系学生・医学生14名、台湾の高校生14名への教育にも利用された。研究面においては、Extracorporeal Membrane Oxygenation (ECMO)のトレーニングを行うために開発した回路が企業により製品化された。このトレーニングの中で、超音波診断装置を用いた穿刺手技(エコー下穿刺)は必須スキルとなるが、本スキルスラボと青森県の工業研究機関及び企業とでエコー下穿刺モデルを共同開発し、3月末日付で特許出願をした(出願番号:特願2019-68156)。また、東北大学病院臨床研究推進センター(CRIETO)と連携を取ることで、CRIETOに登録した企業に対して、本スキルスラボの見学や活動を紹介することで、医療機器開発等の新たな研究シーズの創出を目指している。更

に、世界的なシミュレータメーカーであるレールダルメディカルと共同研究契約を締結し、新たなシミュレーション教育コンテンツを開発中である。本スキルスラボは教育面と研究面の双方で積極的な活動を行っているが、このように、地域医療への教育、シミュレータ開発、教育コンテンツ開発等を総合的に展開している施設は国内では類を見ない。高度な医療人の養成や病院機能の強化に貢献するためにも、今後も継続した活動を実施していく。

・先端医療技術トレーニングセンターは平成 25 年 10 月の開所以来、生体を用いた多様な医療技術トレーニングの場を提供してきた。平成 30 年度のトレーニング数はウエットラボトレーニング 15 件、ドライラボトレーニング(セミドライラボを含む)27 件であった。また開所当初より、多様なトレーニングに対応してきたが、近年は、シミュレータトレーニング(スキルスラボ)、cadaver トレーニング(医学部解剖学教室)と密接に連携し、クリニカル・スキルスラボとトレーニングセンターの職員の相互派遣を行い、実践的且つ先進的な医療技術トレーニングを行っている。更に、実際のトレーニングでの技術習得効果を客観評価するために、生体トレーニングにおいては、初めてとなる手技トレーニング評価システムを用いた受講者技術評価を行い、スキル向上に関するフィードバック評価を含めた新たな試みを始めている。充実したトレーニング内容のため、クリニカル・スキルスラボと連携した「初期研修医のための外科手術トレーニング」が東北地方の初期研修医に好評で、受講希望者が増加しており(今年度 20 人受講、昨年度の 15 人と比較し 133 %増)、当施設の質の高い教育内容が評価された結果であると判断される。各診療科で行われる生体トレーニングは、近年では、定期的に行われるトレーニングが多くを占めており、本センターを利用したトレーニングが、卒後医学教育分野において、一般化かつ標準化したものになりつつあることを示している。

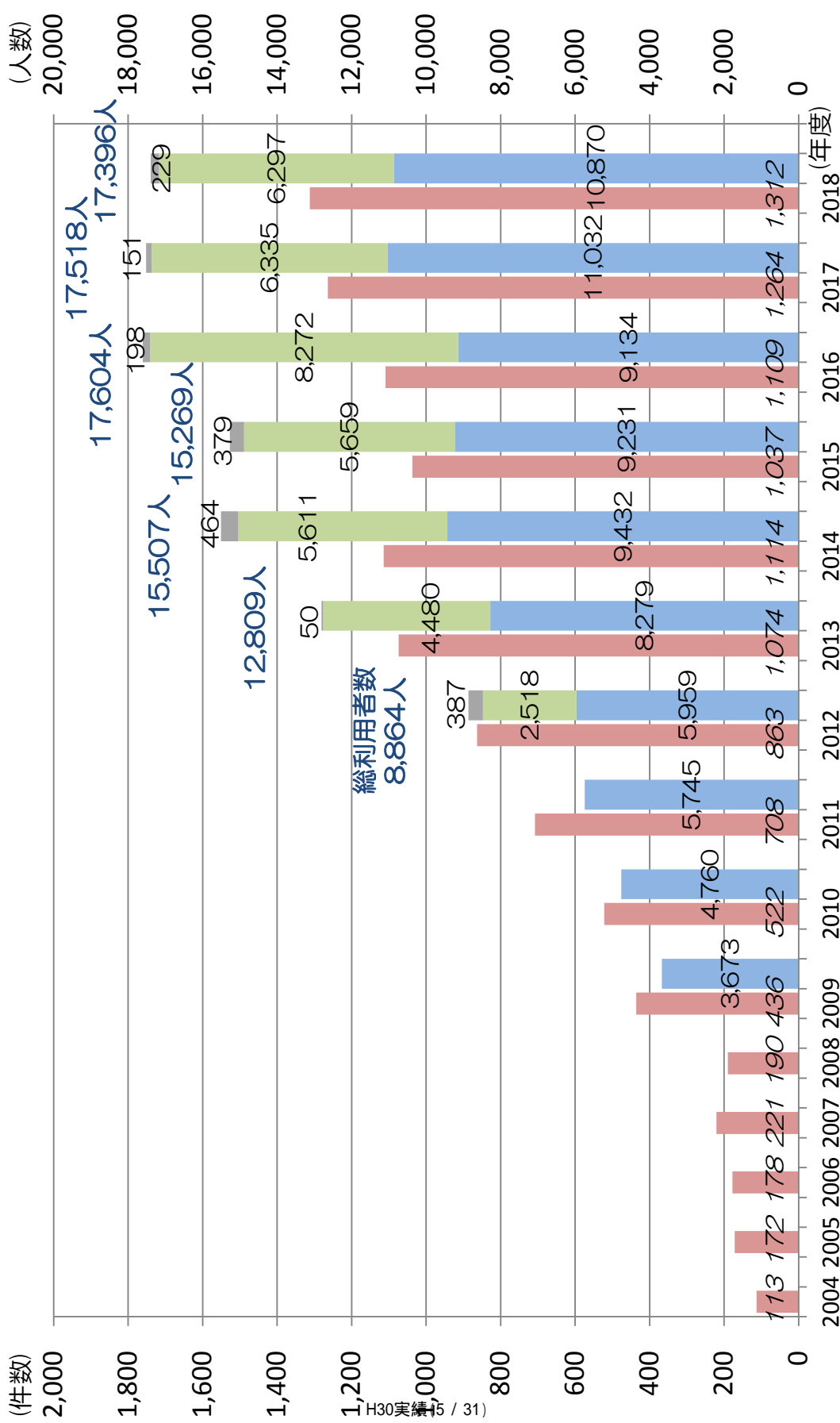
・被災地医療体験実習について、平成 29 年度に引き続き、全国の医学科学生を対象に東日本大震災で被害を受けた地域で臨床実習を行い、地域に密着した医療の重要性を実感できる機会を設けた(実施期間:7月(平成 30 年7月 29 日－8月1日)・3月(平成 31 年3月 10 日－13 日、実習先:石巻赤十字病院、気仙沼市立本吉病院、参加人数:7月医学生3名・引率者2名、3月医学生1名・引率者2名))。実習後アンケートには、当時の関係者から直接話を聞くことができ、大変充実した実習を体験できたなど、参加者より高い評価を得ている。

・新専門医制度については、初期研修から専門研修、大学院進学をシームレスに繋ぐスペシャリスト一貫養成コースを 19 全領域で提示し、早期からの専門経験を重視した研修者を募集した。学位と専門医の双方が取得可能であり、平成 30 年度より 19 全領域で募集を開始し、基幹病院として専攻医を受け入れている。

(クリニカルスキルスラボ・先端医療技術トレーニングセンターの実績等については、添付「51【スキルスラボ・トレセン等の実績参考資料】.pdf」のとおり。)

[51【スキルスラボ・トレセン等の実績参考資料】.pdf](#)

東北大学クリニカル・スキルスラボの利用実績の推移



平成30年度クリニカル・スキルスラボの活動

医療技術と医療安全の向上を醸成

より高度な
医療人材の育成

生涯学習の場と
機会の提供

地域医療の
質の向上

安全意識
の向上

学生教育

医学科初年次の医療体験、4年次の準備実習、4～6年次の臨床実習、保健学科の各演習等で、基本的な手技や現場では十分に経験できない症例をシミュレータを通して体験。

院内スタッフ教育

入職したばかりの初期臨床研修医への集中実習、看護部の定期研修、医療安全推進室と連携した院内スタッフへの急変対応研修、医療従事者の個人学習への対応等を実施。

地域の医療従事者への教育

地域の病院に在籍する初期臨床研修医の研修や看護部の研修等で利用。各機関が認定するコースでは、全国各地から医療従事者が参加。仙台市から遠方に所在する病院へ出張研修も実施。

市民への啓発

学校の教員や保育士、スポーツ関係者等に対して、心肺蘇生法や食物アレルギーによる急変時対応の研修を実施。中学生の医療体験会や上級学校訪問へも対応。

東北大学 クリニカル・スキルスラボ



SIMSTAR
Simulation Center for Medical Skills Training and Research
Tohoku University

研究活動

医療訓練用モデル開発で、製品化1件、特許出願1件、企業との共同研究進行中1件を実施。世界的なシミュレータメーカーと共同研究を開始し、教育コンテンツを開発中。



(左) 気仙沼市立病院での出張スキルスラボ

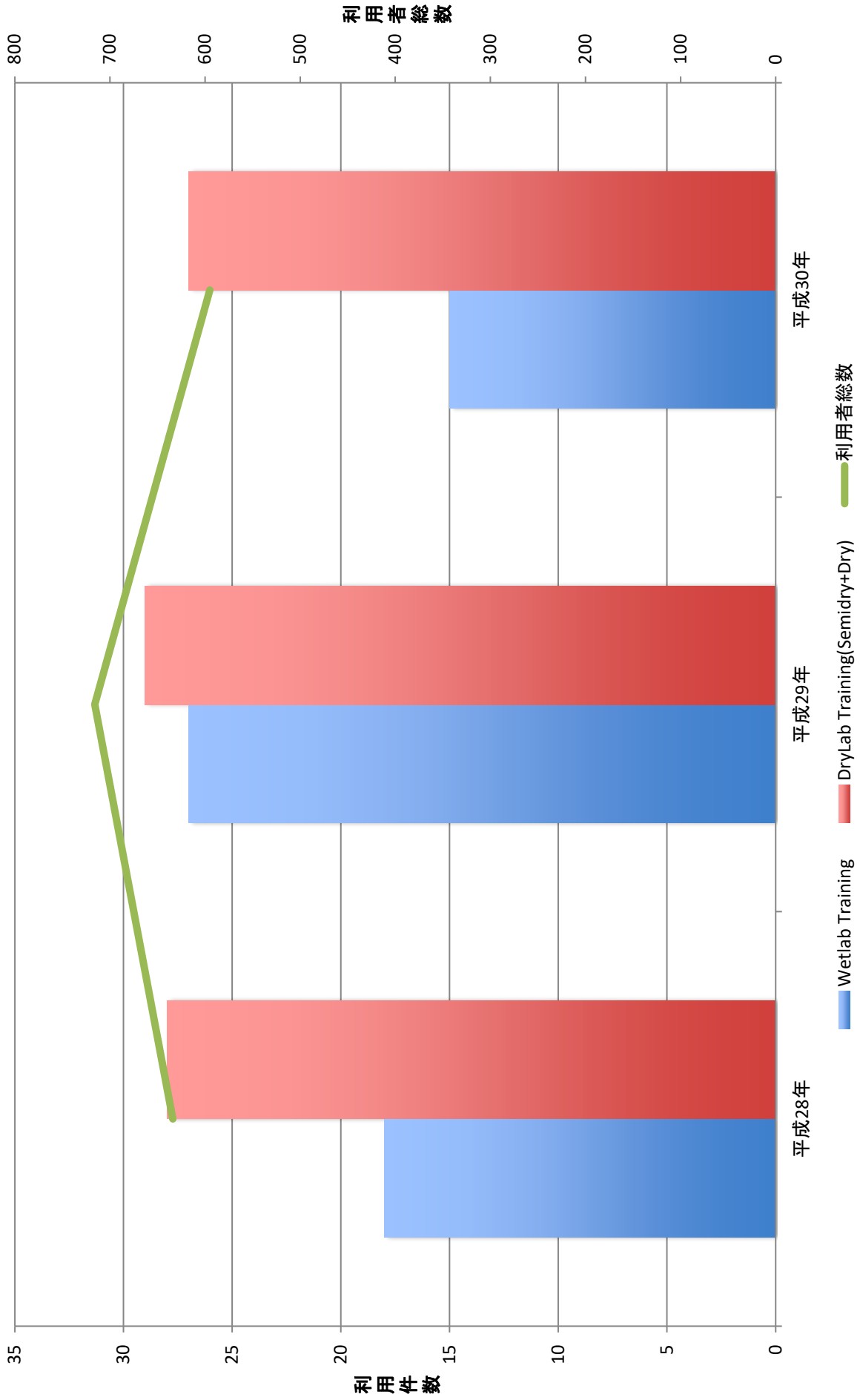


(右) 地域の病院の看護部新人研修

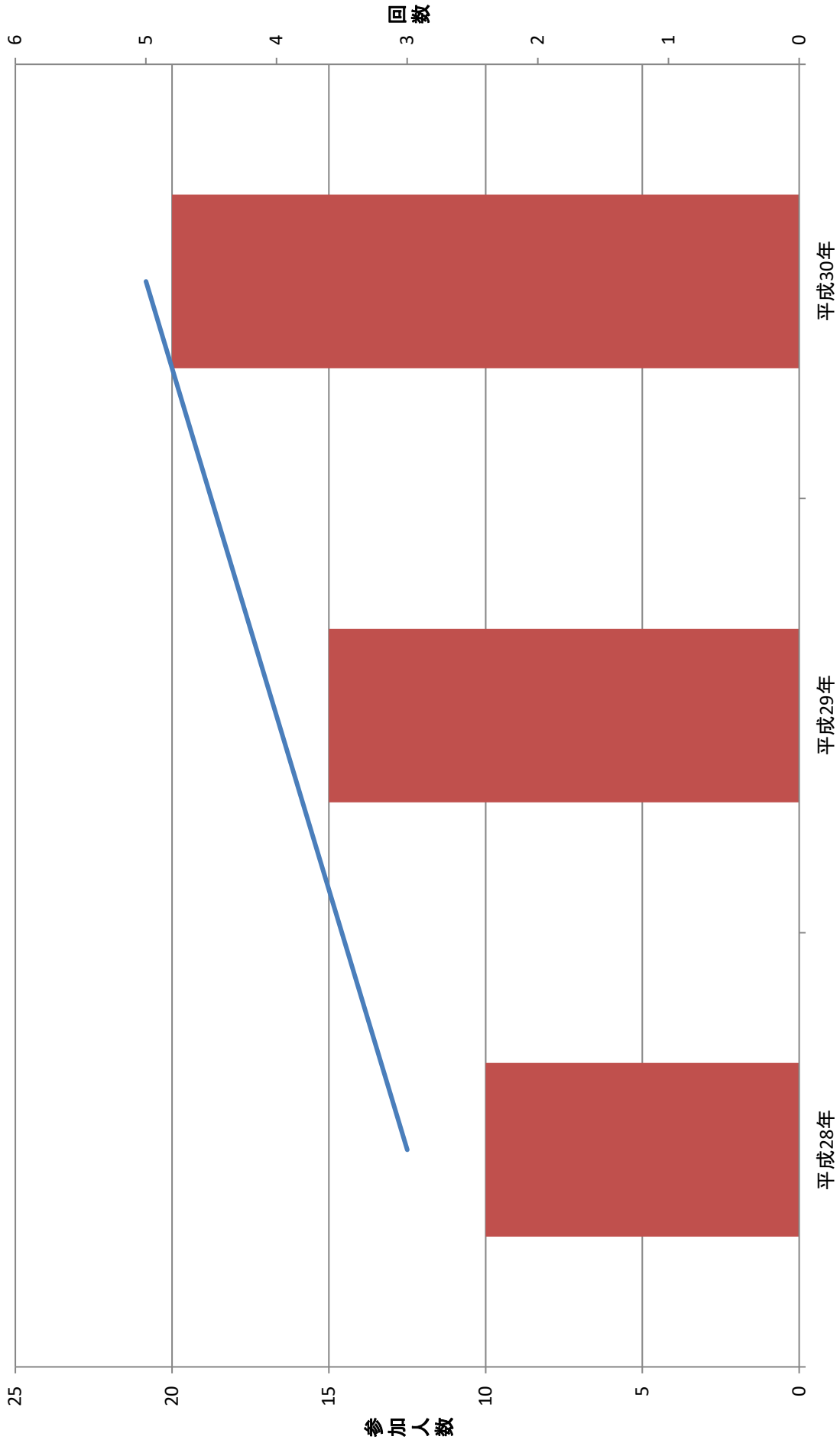


(右) 救急救命士を対象とした現場活動シミュレーション

平成30年度 先端医療技術トレーニングセンター実績



平成30年度 外科手術トレーニング実績



3. 未来型医療関係

No.20 ①-2 世界トップレベル研究の推進

実績報告

【教育・研究面の観点】【診療面の観点】

<臨床・がんゲノム医療中核拠点病院>

・平成30年度は、本院のがんゲノム医療連携病院として4月に6病院、10月に2病院が認められた。また、6月と12月に「東北がんゲノム医療連携病院連絡会議」を開催、9月から各連携病院もがんゲノム診断カンファレンスにWEB参加し、連携の強化を図ってきた。平成31年度は、がんクリニカルシーケンス検査の保険収載が見込まれており、がんゲノム医療中核拠点病院の院内の診療機能と次世代がん医療開発機能を強化するほか、がんゲノム医療に携わる人材育成を含め東北地方全域のがんゲノム医療の普及・啓発を推進している。

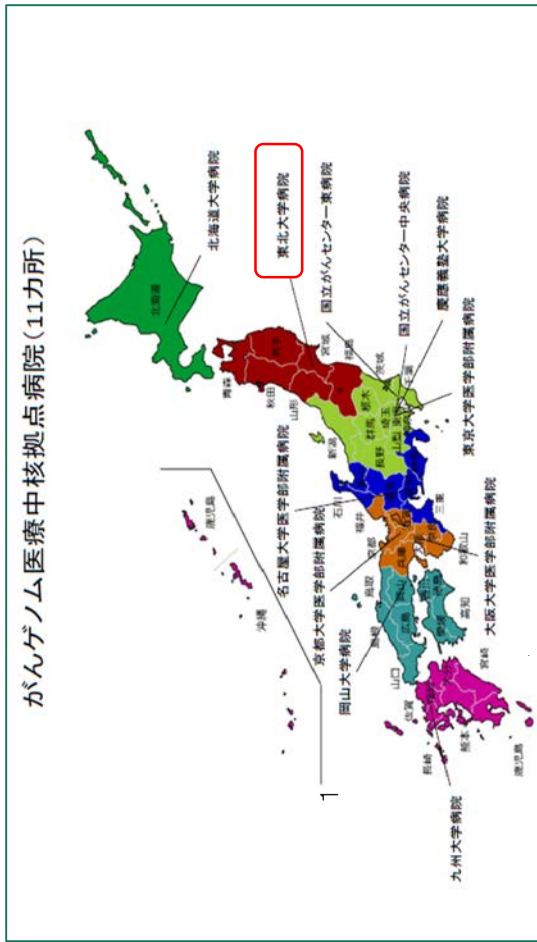
(補足資料「特1【未来型医療関係参考資料】.pdf」のとおり。)

<臨床研究・個別化医療関係>

・世界に先駆けたゲノムコホート研究の基盤を有する東北メディカル・メガバンク機構や、最新医学知識と基礎医学研究の基盤を有する医学系研究科、未来型医療創成医療センターと連携し「個別化医療」の推進を図っている。疾患バイオバンク部門では病院に通院する全ての患者を対象とし血液、手術検体などの生体試料や診療情報を適切な管理・保管を行い、病気の新たな原因を明らかにする研究などに活用している。東北メディカル・メガバンクでの巨大な健常人コホートと対になる疾患コホートを持つバイオバンクは日本では唯一であり、星陵地区での臨床研究の基盤となる。2018年度末までに採血検体1026検体、手術検体587検体が保管され、様々な研究に利用されている。また、クリニカルシーケンス部門ではがんゲノム医療中核拠点病院として、遺伝子パネル検査を行い連携病院とエキスパートパネルを定期的に開催している。バイオバンクにて保管された検体を用い、シーケンス等の様々な分子解析を行い、臨床面ではがん患者へ治療の提案しながら研究面では新しいゲノム診断方法の開発を推進している。

[特1【未来型医療関係参考資料】.pdf](#)

ゲノム医療を必要とするがん患者が、全国でがんゲノム医療を受けられる体制を構築するため、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関として、厚生労働大臣が11病院を指定（平成30年2月16日付）



平成30年度

6月、12月に東北がんゲノム医療連携病院連絡会議を開催
9月からがんゲノムカンファレンスに連携病院がWEB参加

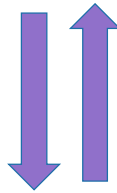
がんゲノム医療連携病院(135カ所)

平成31年度

がんゲノム医療中核拠点病院

- ・質の確保されたゲノム検査
- ・ゲノム検査結果解釈の付与
- ・遺伝カウンセリング実施・支援
- ・治験・臨床試験への紹介・実施
- ・適切な臨床等情報収集・管理・登録
- ・ゲノム医療に関わる人材の育成

検体・臨床情報



レポート

本院の連携病院

- 弘前大学医学部附属病院
- 岩手医科大学附属病院
- 宮城県立がんセンター
- 秋田大学医学部附属病院
- 山形大学医学部附属病院
- 福島県立医科大学附属病院
- 新潟大学医学部総合病院
- 新潟県立がんセンター・新潟病院



4. トランスレーショナルリサーチの促進

No.24 ②-3 トランスレーショナルリサーチの促進

実績報告

【教育・研究面の観点】

・学内の関係16部局が組織横断的に連携したメディカルサイエンス実用化推進委員会が中心となり、医薬品、医療機器等の実用化を目指す革新的なシーズの支援を行っている。平成30年度は「線溶系阻害蛋白質を標的とする肺高血圧症の新規治療薬の開発」など日本医療研究開発機構(AMED)事業における革新的医療技術創出拠点プロジェクトによる開発シーズ登録数を平成29年度比で未登録数260件から平成30年度は34件増加させ、294件とした。登録したシーズにおいては、PMDA相談や規制全体像に関するコンサルティングを行うことにより、実用化へのロードマップを明確にしたことで、14件で公的研究費の獲得に至った。また早期から事業化を見据えた特許取得及び産学連携により、14件のライセンスアウト、1件の薬事承認申請、2件の薬事承認取得に至った。(2件の薬事承認取得:「メラ金属コネクタ」「MEBRIGHT™ NUDT15 キット」)また、薬事承認申請を2件行った。

・医工連携、産学連携、知的財産等、トランスレーショナルリサーチに関連した様々な分野の内容について、主に学内から講師を招いたTR(トランスレーショナル)セミナーを3回開催した。本セミナーは本学医学系研究科の大学院生の単位取得のための授業として認定されていることに加え、本学職員、外部へも公開している。

5. 医療安全及び医療の質の向上

No.52 ①-4 医療安全及び医療の質の向上

実績報告

【診療面の観点】

・医療安全体制を強化するため、平成30年度から、更に医療安全推進室に医師のポストを増設し、これまで兼任で GRM 活動を行っていた内科医師を専任として配置した。医療安全の要となる医師については、外科系1名が専従で、内科系1名が専任で、それぞれの専門や経験を生かすことで、院内の医療安全活動を推進することが出来た。また、医療安全推進室のマンパワーが増えたことにより、各種改善にも積極的に取り組めるようになり、平成30年度には、放射線読影レポート未読防止対応や指示出し・指示受けの運用見直し、インフォームド・コンセントの運用の整理等の各種活動にも取り組むことが出来た。

・人を対象とする医学系研究を実施する全ての教職員・大学院生を対象とした臨床研究講習会を学外者へも門戸を開き6回開催した。臨床研究推進センターのホームページや日本医師会治験促進センターの「会合のお知らせ」などで学外への広報を行っている。平成30年度の同講習会候補者は、学内延べ429名、学外延べ26名であった。加えて、同講習会を e-learning にて配信、確認テストを追加したうえで受講の確認を行うことも継続している。e-learning の平成30年度の受講者は延べ357名であった。

・治験及び治験以外の医薬品・医療機器を用いた侵襲・介入を伴う臨床研究を実施する医師・歯科医師に対し、臨床研究ライセンス制度を導入しており、研究を実施する前年度にライセンス制度認定講習会への出席(責任医師2回以上、分担医師1回以上)によるライセンスの取得及び更新を義務付けており、平成29年度からは病院長名でライセンス証書を発行している。臨床研究中核病院である本学が主催として、主に学外の者を対象に、「臨床研究・治験従事者研修(医師・歯科医師対象)」を開催し、学外から6名の参加があった。我が国の臨床研究・治験委関する標準教育カリキュラムの作成・見直しを図るため、他の開催施設と実施内容や実施結果などを共有した。平成29年度に引き続き、研究者・研究支援者を含む全病院職員を対象に「品質監査報告会」を実施し、「東北大学病院臨床試験品質保証室監査(品質監査)」で発見された指摘事項を院内に広く周知することで、同様の逸脱の発生を防止している。

・他大学でのインシデント発生状況を踏まえ、放射線読影レポートにおける重要所見の見落とし防止を目的として、医療安全推進室が、毎月の未読状況を診療科毎に整理し、未読となっているレポートについては各診療科へ通知することで確認を促すとともに、医療安全推進委員会においてもその状況を報告している。また、当院の診療科の医師全員に対し、患者に対して実施された検

査結果や各種レポート、また他科からの返信を確認し適切に対処することは依頼医・依頼診療科の責務であることをポリシーとして明示し、平成 31 年 3 月 28 日付で病院長名で周知した。

・臨床試験データセンターが臨床試験品質保証室の支援により ISO9001:2015 の認証を取得した。ISO9001 認証は、品質マネジメント(QMS)の国際規格であり、革新的医療技術創出拠点病院のデータセンターとしては初の実績である。

・2020 年 5 月の病院機能評価受審に向けて、機能評価 WG を立ち上げ、全診療科を挙げた受審体制を構築した。特に、受審区分については、特定機能病院を対象とする「一般病院3」になることを受けて、ガバナンスの仕組みと実践や医療安全、感染制御に関する取組が重点的に評価対象となり、基準が厳格化されることを踏まえ、内科、外科、医療安全、感染管理など重点事項に対して、診療科長級を充てコアメンバーとした体制としており、不断の病院機能の強化に努めている。

6. より安定した経営基盤の確立

No.50 ①-2 より安定した経営基盤の確立

実績報告

【運営面の観点】

・HOMAS2(国立大学病院向け管理会計サービス)等により出力したデータを分析し定期的に院内会議で周知することにより、本院の経営状況や全国的な立ち位置について情報共有し増収に向け経営改善に取り組んだ。入院単価に関して、前年度実績を 3,528 円上回り、全国国立大学病院内での順位を 4 つ上げた。

・先進医療棟(新中央診療棟)の稼働に関して、5 月の移転期間があったにもかかわらず院内一丸となって安定稼働に向け取り組んだ結果、手術件数は前年度を 424 件上回った。

＜手術件数比較＞+424 件

- 平成 29 年度:9,189 件
- 平成 30 年度:9,613 件

・デイサージャリーセンターを開所し、センターにおいて特定した日帰り手術の適応疾患を効率的かつ安全に配慮し高度な治療を行うことにより患者の QOL の向上を図ることとした。今年度は適応疾患の第一例として白内障の日帰り手術を開始した。今後は患者動向に注視しながら安定運用を行い手術件数を増加させるとともに、将来的には適応疾患の拡大を目指す。

・医療材料は、随時の価格見直しによる削減及び診療科等による安価品への切替えに加え、国立大学病院全体での共同調達による価格削減を実施して、購入費を削減する取組を行い、取組前と比較して 30 年度は 47,670 千円を削減した。医薬品は、随時の価格見直しによる削減に加え、後発医薬品の採用拡大を推進するなど、経費削減の取組を行い、取組前と比較して 30 年度は 78,617 千円を削減した。

【参考】経費削減額内訳

＜医療材料削減額＞ -47,669,713 円

内訳)◎H30 年度共同調達による削減実績

29 年度分(H30.4～12) → -1,587,737 円

30 年度分(H31.1～3) → -2,763,448 円

◎H30 年度安価品切替えによる削減実績

第 4 次契約分(H30.4～H31.3) → -9,079,880 円

◎H30 年度価格交渉による削減実績

第 4 次契約分(H30.4～H31.3) → -34,238,648 円

＜医薬品削減額＞ -78,617,316 円

(24：病院)

内訳) ◎H30 年度価格交渉による削減効果 → -42,522,435 円

◎H30 年度後発品切替による削減効果 → -36,094,881 円

7. 国際的病院機能を目指した設備・機能の整備

No.49 ①-1 国際的病院機能を目指した設備・機能の整備

実績報告

【教育・研究面の観点】【診療面の観点】

・国際的拠点病院として機能するため、病院広報の国際化及び外国人患者診療体制の整備を進めるとともに、医療・医学教育・医学研究に関して諸外国と連携して人材交流を進めている。

・東北大学病院ホームページ(英語版)の内容点検・拡充に努めるとともに、海外からのアクセス数(10,000PV/年)を分析し、今後の広報戦略を検討する上での参考としている。

・モバイル通訳システム(英・中・韓・ポルトガル・スペイン語の5か国語対応)を医療現場のニーズに適したものとするため、国際化推進室において稼働状況及び利用回数の多い診療科や事務部を分析し、効率的な配置となるよう随時検討している。また、当該分析結果を踏まえ、病院全教職員に対する周知として「病院だより」や病院全職員が必携する「総合案内ハンドブック」により周知を行っている。さらに、緊急時にも対応できるよう、時間外当直にも配備する運用としている。

・国際化推進室で運用する遠隔カンファレンスシステムについては従前より各診療科において症例検討や遠隔会議・講義、地域や海外の病院等への支援に積極的に活用しているところであるが、運用・稼働拡大のため病院総務課にハブとなる管理担当者を置く体制を構築とし、第一会議室を遠隔カンファレンスに適した電子会議室として整備した。遠隔カンファレンスシステムの積極的活用による症例検討や講義、会議出席は、単に旅費軽減のみならず、海外の症例や研究等に触れ、医療の国際化を図ることに非常に効果的である。なお、本システムは、国内においても、がんゲノム医療中核拠点病院として開催する「がんゲノム診断カンファ」で有効に活用されている。

・てんかんセンターが主催する遠隔てんかん症例検討会は日本てんかん学会における正規の研修制度として認定され、アジアを中心とする海外からの参加者も増え、国際的な人材養成に寄与している。

(※医療人材の交流(受入及び派遣)、WEBカンファの実施状況については、添付「49【病院国際化実績に関する参考資料】.pdf」のとおり。)

[49【病院国際化実績に関する参考資料】.pdf](#)

病院国際化関係調査に関する報告（概要）

1. 調査概要

「東北大学ビジョン 2030」（案）に「次世代医療を牽引するグローバル・ハブとしての病院機能強化」が掲げられているところであり、この目標達成に向けて、実現見通し把握のため、病院長と事務部のミーティング（H30.9.6）において相談の上、病院内の実態調査を実施したものを。

2. 調査方法

全診療科（医局長及び医局事務担当者）及びコメディカル部門に対して、メール送信によりアンケート形式にて照会。調査は、照会から締切まで 2 週間の作業期間を設け、①平成 30 年 4 月～9 月末までの見学受入・派遣の件数、②過去 5 年間の技術指導、海外展開等の件数について回答いただいた。（リマインド 1 回実施。）

3. 見学受入（派遣）件数について（報告）

平成 30 年 4 月～9 月末までの期間における調査結果は、以下のとおり。（詳細は別紙）

この他に、大学病院として視察対応を行ったハルオレオ大学（インドネシア）（H30.8.30）等が挙げられる。また、WEB カンファに関しては、診療科によって日常的（週 1 回程度）に症例検討や医療機器、技術等に関する意見交換を実施している。

ア) 見学受入

<件数>

34 診療科等 81 件

<国・その他の地域（50 音順）>

アメリカ、イギリス、インド、スイス、中国、台湾、パキスタン、フィンランド、メキシコ等

<主な目的>

当院の診療体制、処置等や設備の見学、派遣元の国等との医療環境の違いについて学習等

イ) 見学派遣

<件数>

7 診療科 14 件

<国・その他の地域（50 音順）>

アメリカ、インドネシア、オランダ、韓国、タイ、中国、ミャンマー

<主な目的>

世界トップレベルの手術技術を見学することや学术交流、技術指導等

海外からの見学・視察等受入状況とりまとめ

No.	診療科名	種別	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
1	形成外科	見学受入	6月1日～11月27日	中国・吉林大学中日聯誼病院	形成外科診療の見学のため	1名	医師1名
2	呼吸器外科	見学受入	8月16日～9月13日	ドイツ・ゲッティンゲン大学	ゲッティンゲン大学医学部学生に対する臨床実習および臨床修練	1名	医学部学生1名
3	脳神経外科	視察	4月15日～4月19日	アメリカ・カイザーパーマネンテ病院 (オークランド病院・サンフランシスコ 病院・ミッションベネビ病院)	医療IT、デジタルヘルスによる患者の 行動変容デザイン、医療費削減 などの面談含む	10か国・40名 (サウジアアラ ビア保健大臣) KP CEOな どとの面談含む	医師、研究者、政治家、官 僚、企業、コンサルタント、 エンジニア
4	脳神経外科	視察	6月13日	アメリカ・	低侵襲機器についての意見交換	1名	医師1名
5	脳神経外科	視察	6月14日	アメリカ・サンフランシスコ ジェネラルホスピタル	頭部外傷臨床についてのアップデート	5名	医師3名、看護師2名
6	脳神経外科	視察	6月15日	アメリカ・スタンフォード大学病院	精神科・就労環境についての意見交換	1名	心理士
7	脳神経外科	見学受入	7月31日	タイ・サミティベート病院	東北大学病院視察	1名	中里先生と対応
8	脳神経外科	見学受入	9月10日	アジア各国	国際交流 (さくらプロジェクト) 対応	20名ほど	学生
9	肢体不自由リハ科	見学受入	4月1日～9月30日	タイ・ラマティボディー病院	肢体不自由リハ科の診療、研究の見学	1名	医師1名
10	肢体不自由リハ科	見学受入	7月1日～7月31日	タイ・ラマティボディー病院	肢体不自由リハ科の診療、研究の見学	1名	理学療法士1名
11	てんかん科	見学受入	9月11日～14日	Alkhairaat Univ Anutapura Hosp (Palu, Indonesia)	部局間協定を締結している施設からの医学生受 け入れによるてんかん学研究促進	6名(6名)	医師3名・医学生3名
12	内部障害リハ科	見学受入	7月18日	中国・吉林大学第一医院 (ほか)	当科での心臓リハビリテーションなどに関する 知識習得のため	20名	医師のみ
13	内部障害リハ科	見学受入	9月11日～13日	中国・天津医科大学/南京医科大学ほか	さくらサイエンスプランのため	6名	医学生のみ
14	放射線治療科	見学受入	9月1日～3月31日	イラン・Shiraz University	放射線治療科で研究している治療技術指導のため	1名	医学物理士1名
15	小児歯科	見学受入	8月6日～14日	中国 (台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生

No.	診療科名	種別	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
16	小児歯科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
17	小児歯科	見学受入	10月9日	カナダ・カモーンソンカレッジ(歯科衛生士学校)	歯科衛生士業務の視察	2名(2名)	教員
18	小児歯科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
19	矯正歯科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
20	矯正歯科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
21	矯正歯科	見学受入	10月9日	カナダ・カモーンソンカレッジ(歯科衛生士学校)	歯科衛生士業務の視察	2名(2名)	教員
22	矯正歯科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
23	口腔診断科	見学受入	7月2日～13日	イギリス・ダンディー大学	外来見学による短期研修	2名(2名)	学部学生
24	口腔診断科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
25	口腔診断科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
26	口腔診断科	見学受入	8月20日～24日	中国(台湾)・台北医科大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
27	口腔診断科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
28	歯科顎口腔外科	見学受入	7月2日～13日	イギリス・ダンディー大学	外来見学による短期研修	2名(2名)	学部学生
29	歯科顎口腔外科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生

No.	診療科名	種別	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
30	歯科顎口腔外科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
31	歯科顎口腔外科	見学受入	9月4日～14日	ロシア・セチェノフ第一モスクワ州立医科大学	外来見学による短期研修	1名(1名)	学部学生
32	歯科顎口腔外科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
33	咬合修復科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
34	咬合修復科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
35	咬合修復科	見学受入	8月20日～24日	中国(台湾)・台北医科大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
36	咬合修復科	見学受入	10月9日～17日	インドネシア・アイランガ大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
37	咬合修復科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
38	咬合回復科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
39	咬合回復科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
40	咬合回復科	見学受入	10月9日～17日	インドネシア・アイランガ大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
41	咬合回復科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
42	歯内療法・歯周病科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
43	歯内療法・歯周病科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生

No.	診療科名	種別	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
44	歯内療法・歯周病科	見学受入	8月20日～24日	中国(台湾)・台北医科大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
45	歯内療法・歯周病科	見学受入	10月9日～17日	インドネシア・アイランガン大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
46	歯内療法・歯周病科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
47	総合歯科診療部	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
48	総合歯科診療部	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
49	総合歯科診療部	見学受入	10月10日～17日	中国・四川大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	大学院生
50	総合歯科診療部	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
51	総合歯科診療部	見学受入	8月9日	アイランガン大学とチュラロンコン大学	JASSO短期受入プログラム	9名	歯学部学生
52	口腔機能回復科	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
53	口腔機能回復科	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
54	口腔機能回復科	見学受入	9月4日～14日	タイ・コンケン大学コンケン大学	コンケン大学での高齢者歯科立ち上げについての打ち合わせ	2名(2名)	教員
55	口腔機能回復科	見学受入	9月18日～10月4日	タイ・プリンスオブソンクラ大学	高齢者歯科での外来見学による短期研究・打ち合わせ	2名(2名)	教員
56	口腔機能回復科	見学受入	10月9日～17日	インドネシア・アイランガン大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
57	口腔機能回復科	見学受入	10月14日～23日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生

No.	診療科名	種別	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
58	歯科中央技工室	見学受入	10月9日	カナダ・カモーンソクカレッジ(歯科衛生士学校)	歯科衛生士業務の視察	2名(2名)	教員
59	歯科衛生士スケーリング 専用ユニット(5F)	見学受入	10月9日	カナダ・カモーンソクカレッジ(歯科衛生士学校)	歯科衛生士業務の視察	2名(2名)	教員
60	歯科インプラントセンター	見学受入	8月6日～14日	中国(台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名(3名)	学部学生
61	歯科インプラントセンター	見学受入	8月6日～13日	中国・北京大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
62	歯科インプラントセンター	見学受入	8月20日～24日	中国(台湾)・台北医科大学	外来見学による短期研修	4名(4名)	学部学生
63	歯科インプラントセンター	見学受入	10月9日～17日	インドネシア・アイルランガ大学	外来見学による短期研修	5名(5名)	学部学生
64	周術期支援センター	見学受入	10月9日	カナダ・カモーンソクカレッジ(歯科衛生士学校)	歯科衛生士業務の視察	2名(2名)	教員
65	総合地域医療教育支援部	見学受入	10月31日	中国・広東省衛生計画生育委員会 (仲介：日中医学交流センター)	日本の災害医療体制等について学ぶため、東日本大震災における医療現場最前線での活躍した石井教授へ講義を依頼	21名 (19名)	医師9名 事務員10名 通訳2名
66	腎・高・内	見学受入	4月9日～20日	アメリカ・マウントサイナイ大学	腎・高血圧・内分泌科で内分泌疾患・高血圧疾患の診療を参考にするため	1名(1名)	医学生1名
67	総合外科(肝胆膵・胃腸外科)	見学受入	8月7日～20日	パキスタン・Shaukat Khanum hospital	総合外科診療を見学のため	1名	医師1名
68	総合外科(肝胆膵・胃腸外科)	見学受入	8月20日～	中国	総合外科診療を見学のため	1名	医師1名
69	整形外科	見学受入	5月9、10日	スイス・Klinik für Orthopädie und Traumatologie des Bewegungsapparates	肩関節の研究、臨床見学のため	1人	医師1人
70	整形外科	見学受入	9月3～18日	インドA.J.Institute Of Medical Sciences and Research Centre	肩関節の研究、臨床見学のため	1人	医師1人

No.	診療科名	種別	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
71	看護部	研修受入	6月20日	フィンランド アウレア応用科学大学看護学科所属 東北福祉大学交換留学生	クリティカルケアにおける環境や設備及び看護のフィンランドと日本の違いについて考察する	3名 (2名)	看護学生1名、東北福祉大学 教員1名、通訳1名
72	研究協力係	臨床修練	2017年12月15日～ 2018年4月30日	メキシコ	本院歯科顎口腔外科にて臨床修練外国歯科医師として受入	1名	歯科医師1名
73	研究協力係	臨床修練	7月1日～11月30日	台湾・Taipei Hospital, Ministry of Health and Welfare	日本消化器病学会リサーチフェローシッププログラムにより、本院消化器内科にて臨床修練外国医師として受入	1名	医師1名
74	産婦人科	見学受入	5月14日～18日	公益財団法人日本産科婦人科学会	診療・手術を見学し、日本と台湾の違いについて学び知見を深める	1名☑外国人1名)	医師 (台北)
75	歯周病科	見学受入	7月3日	宮城高等歯科衛生士学院	国際的視野をもった歯科衛生士の育成のため	1 2名☑外国人5名)	学生・教員
76	高度救命救急センター	見学受入	7月30日	台湾栄民総医院	原子力災害対応、緊急被曝医療体制や病院機能を視察し、意見交換する目的	4名☑全員外国人)	医師
77	小児外科	見学受入	11月20日～12月20日	Zhengzhou Children's Hospital	胆道閉鎖症の調査及び取扱い研究について	1名☑外国人)	医師 (中国)
78	高次脳機能障害科	見学受入	8月31日	(社) 台南市ゼーランデンディア認知症協会 宮城県保健福祉部長寿社会政策課	今後の認知症医療やケアについての取組について参考とするため	1 8名☑外国人1 6名)	医師15・通訳1・県2
79	生理検査センター	見学受入	9月13日	GEヘルス・ケアジャパン (株)	海外にいる製品担当者による日本の超音波検査について理解し、お客様にご要望にお応えできるようにするため	3名☑外国人2名)	製品担当者
80	東北大学病院	見学受入	8月30日	ハル・オレオ大学 (インドネシア)	Zamurun学長と本理学研究科の荻野准教授の共同研究を部局間協定に発展させる可能性を探りたいとのこと。また、東北大学と大学レベルの交流を行う方法について相談したいとのこと。	5名☑全員外国人)	学長他
81	東北大学病院	見学受入	9月10日	さくらサイエンスプラン	アジア地域と日本の科学技術の発展に貢献することを目的としている。	1 4名☑全員外国人)	理学療法士他

海外への見学・視察等派遣状況とりまとめ

No.	診療科名	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
1	総合外科 (移植再建内視鏡外科)	8月9日～12日	中国吉林大学	医学交流	6名	医師6名
2	総合外科 (肝胆膵・胃腸外科)	8月5日～15日	ミヤンマー、マンダレイ 総合病院	技術指導の可能性検証のため	1名	医師
3	総合外科 (乳腺・内分泌外科)	8月9日～12日	中国・吉林大学	学術交流、中国の乳癌診療体制の見学。	2名 (0名)	医師2名
4	脳神経外科	7月19日	韓国・ソウル AO財団 (本部ダボス) 頭蓋顔面教育セミナー講師	頭蓋顔面外傷における頭蓋内損傷マネジメントについてのレクチャーおよび意見交換	ファカルティ (韓国口腔外科・形成外科医師) 10名 受講生 (口腔外科・整形外科医師) 40名	医師50名
5	心臓血管外科	3月16日～6月11日	米国・クリーブランドクリニック	世界トップレベルの開心術を見学し技術を向上させるため	1名	医師1名
6	放射線治療科	4月1日～3月31日	オランダ・ユトレヒト大学	放射線治療科で導入を予定しているMRIライナックの技術研修のため	1名	医師1名
7	漢方・統合医療学 寄附講座	9月17日	中国・日中友好病院	中西医結合腫瘍内科にて行われている癌患者への漢方薬の応用事例を紹介いただくため	2名	医師1名、 鍼灸師1名
8	歯科麻酔疼痛管理科	10月25日～10月27日	大連市口腔医院,大連医科大学歯学部	China-Japan Dental Science Symposium出席	1名	歯科医師1名
9	歯学研究リエゾンセンター	7月8日～21日	中国・四川大学	外来見学による短期研修	1名	学部学生
10	歯学研究リエゾンセンター	8月5日～15日	タイ・チュラロンコン大学	外来見学による短期研修	2名	学部学生
11	歯学研究リエゾンセンター	9月8日～17日	中国 (台湾)・国立陽明大学	外来見学による短期研修	3名	学部学生
12	歯学研究リエゾンセンター	9月11日～21日	中国・天津医科大学	外来見学による短期研修	2名	学部学生
13	歯学研究リエゾンセンター	9月12日～22日	中国(香港)・香港大学	外来見学による短期研修	4名	学部学生
14	歯学研究リエゾンセンター	9月16日～26日	インドネシア・アイランガ大学	外来見学による短期研修	1名	学部学生

海外とのWEBカンファ状況とりまとめ

No.	診療科名	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
1	脳神経外科	4月6日	アメリカ・ハーバード病院	学術意見交換	—	—
2	脳神経外科	4月24日	アメリカ・アイオワ大学	埋め込み型デバイスの運用についての意見交換	4名	医師4名
3	脳神経外科	4月27日	アメリカ・スタンフォード大学	バイオデザインプログラムについての意見交換	8名	医師2名
4	脳神経外科	7月9日	タイ・サミテイベート病院	医療ツーリズムについての意見交換	1名	経営マネージャー
5	脳神経外科	7月28日	アメリカ・カイザーパーマネンテ病院	病理診断における拡張現実 (AR) についての意見交換	2名	医師1名 コンサルタント 1名
6	脳神経外科	8月3日	UCLA公衆衛生学	ビッグデータ時代の公衆衛生の見地からの紹介	1名	医師1名
7	脳神経外科	8月10日	シンガポール国立大学病院	病院におけるイノベーション拠点形成	2名	医師1名 エンジニア・マネージャー1名
8	脳神経外科	8月18日	國立台湾大学	脳内出血における日本の術式とトレンド	1名	医師1名
9	脳神経外科	8月18日	アメリカ・UCSF	病理診断における拡張現実 (AR) についての意見交換	1名	医師1名 コンサルタント 1名
10	脳神経外科	8月29日	アメリカ・スタンフォード	低侵襲機器についての意見交換	1名	医師1名
11	脳神経外科	9月3日	國立台湾大学	脳内出血デバイスの日本展開 (規制、保険収載)	1名	医師1名
12	脳神経外科	9月4日	アメリカ・スタンフォード	日本の透析市場のニーズ	2名	医師1名 コンサル1名
13	脳神経外科	9月12日	ロンドン・St Mary's Hospital	低侵襲機器についての意見交換	1名	エンジニア1名
14	脳神経外科	9月14日	イスラエル・Hadaash Medical Center	爆風損傷：mass casualtyの対応	1名	医師1名

No.	診療科名	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
15	脳神経外科	9月18日	ジュネーブ・WHO	高齢者医療のKPI	1名	医師1名
16	脳神経外科	9月21日	アメリカ・スタンフォード	病理診断における拡張現実（AR）についての意見交換	2名	医師1名 コンサルタント 1名
17	てんかん科	4月3日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	4施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
18	てんかん科	4月10日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	4施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
19	てんかん科	4月17日	Alkhairaat Univ (Palu, Indonesia), Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	5施設 (3施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
20	てんかん科	4月24日	Alkhairaat Univ (Palu, Indonesia), Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	3施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
21	てんかん科	5月8日	Alkhairaat Univ (Palu, Indonesia), Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	5施設 (3施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
22	てんかん科	5月15日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	2施設 (1施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生

No.	診療科名	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
23	てんかん科	5月22日	Alkhairaat Univ (Palu, Indonesia), Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施 設の診療レベルの向上を図る	5施設 (3施設)	医師、検査技師、臨床心 理士、学生
24	てんかん科	5月29日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施 設の診療レベルの向上を図る	4施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心 理士、学生
25	てんかん科	6月5日	Alkhairaat Univ (Palu, Indonesia), Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Diponegoro Univ (Semarang, Indonesia), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施 設の診療レベルの向上を図る	6施設 (4施設)	医師、検査技師、臨床心 理士、学生
26	てんかん科	6月12日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施 設の診療レベルの向上を図る	4施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心 理士、学生
27	てんかん科	7月13日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Diponegoro Univ (Semarang, Indonesia)	入院精査症例の検討から、参加全施 設の診療レベルの向上を図る	4施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心 理士、学生
28	てんかん科	7月10日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan), Univ of Indonesia (Jakarta, Indonesia)	入院精査症例の検討から、参加全施 設の診療レベルの向上を図る	6施設 (3施設)	医師、検査技師、臨床心 理士、学生

No.	診療科名	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
29	てんかん科	7月17日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Philippine General Hospital (Manila, Philippine)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	6施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
30	てんかん科	7月24日	Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	4施設 (1施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
31	てんかん科	7月31日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Diponegoro Univ (Semarang, Indonesia)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	4施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
32	てんかん科	8月7日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taiwan, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	3施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
33	てんかん科	8月14日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taiwan, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	2施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生
34	てんかん科	8月21日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	4施設 (1施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生、ASU連携研究者
35	てんかん科	8月28日	Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	6施設 (1施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生、ASU連携研究者
36	てんかん科	9月4日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Makassar Univ (Semarang, Indonesia)	入院精査症例の検討から、参加全施設の診療レベルの向上を図る	7施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、学生、ASU連携研究者

No.	診療科名	期間	見学・視察先 (または派遣先)	目的	見学・視察者数 (外国籍の人数)	見学・視察者 職種
37	てんかん科	9月11日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設 の診療レベルの向上を図る	7施設 (2施設)	医師、検査技師、臨床心理士、 学生、ASU連携研究者
38	てんかん科	9月18日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan)	入院精査症例の検討から、参加全施設 の診療レベルの向上を図る	5施設 (1施設)	医師、検査技師、臨床心理士、 学生、ASU連携研究者
39	てんかん科	9月25日	Azerbaijan Medical Univ (Baku, Azerbaijan), Diponegoro Univ (Semarang, Indonesia), Taipei Veterans Hospital (Taipei, Taiwan)	入院精査症例の検討から、参加全施設 の診療レベルの向上を図る	7施設 (3施設)	医師、検査技師、臨床心理士、 学生、ASU連携研究者

8. コンダクター型災害保健医療人材の養成

No.03 ②-2 大学院教育の充実

実績報告

【教育・研究面の観点】

・文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム(テーマ:医療チームによる災害支援領域)において、当院から『コンダクター型災害保健医療人材の養成』を申請し、9月に選定を受けた。

本事業は、東北大学(病院、医学系研究科、歯学研究科、災害科学国際研究所)及び福島県立医科大学(医学研究科、附属病院)が共同で、自治体(宮城県、福島県)、NPO 法人災害医療ACT 研究所、地域病院(石巻赤十字病院、大崎市民病院、南相馬市立病院、福島赤十字病院)、国立病院機構災害医療センター、日赤医療センター、石巻市薬剤師会と連携しながら、東日本大震災時の対応経験を基に教育コンテンツを構成し、これらの組織のコアメンバーを主な教育スタッフとした「災害マネジメントコース」を設け、自然災害、CBRNE 災害及び複合災害に対応でき、様々な職種・他組織と連携・協働でき、急性期から慢性期にかけて現場でも後方でも機能する人材を養成するものである。同コースを基盤研修とし、これに社会医学系専門医資格取得や学位取得可能なカリキュラムを付加したキャリア形成や研究推進可能な学習コースも併せて設置する。(事業概要のポンチ絵については、添付「特 2【コンダクター型災害保健医療人材養成参考資料】.pdf」のとおり。)

平成 30 年度においては、平成 31 年度から教育プログラムを実施するにあたり、プログラム運営企画委員会を 3 回及びプログラム運営委員会を 1 回開催して、仙台だけでなく仙台及び福島両地区での各科目の実施などについて企画するとともに、外部評価委員会を 1 回開催し、外部評価委員会からは今後の本プログラムの実施に対する期待が示された。また、3 月 29 日にはキックオフミーティングを開催し、63 名が参加した。

[特 2【コンダクター型災害保健医療人材養成参考資料】.pdf](#)

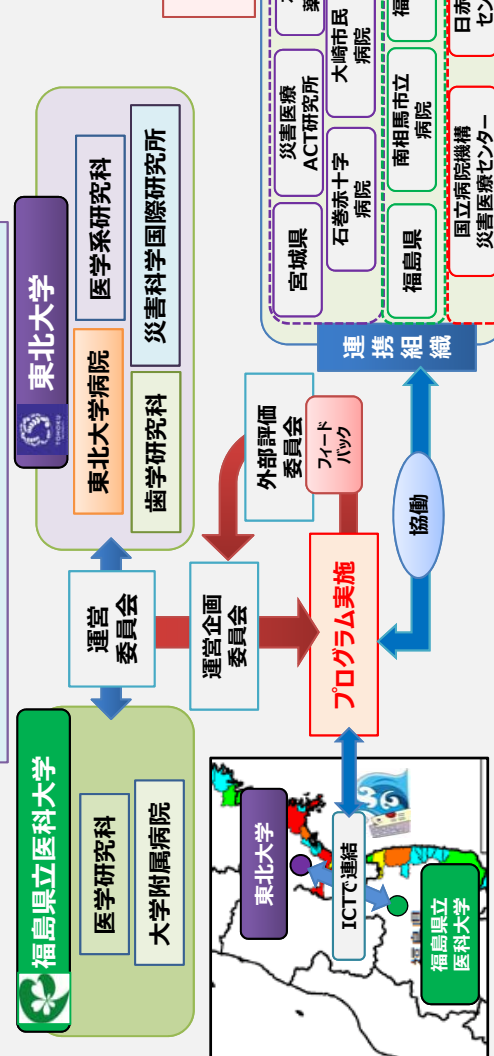
コンダクター型災害保健医療人材の養成

～あらゆる災害、あらゆるフェーズ、あらゆる立場でマネジメントできる人材を養成～

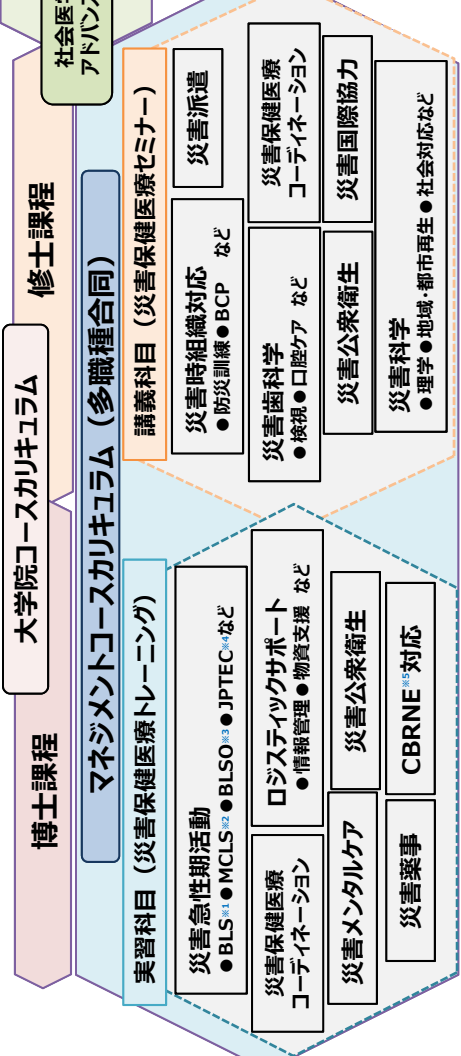
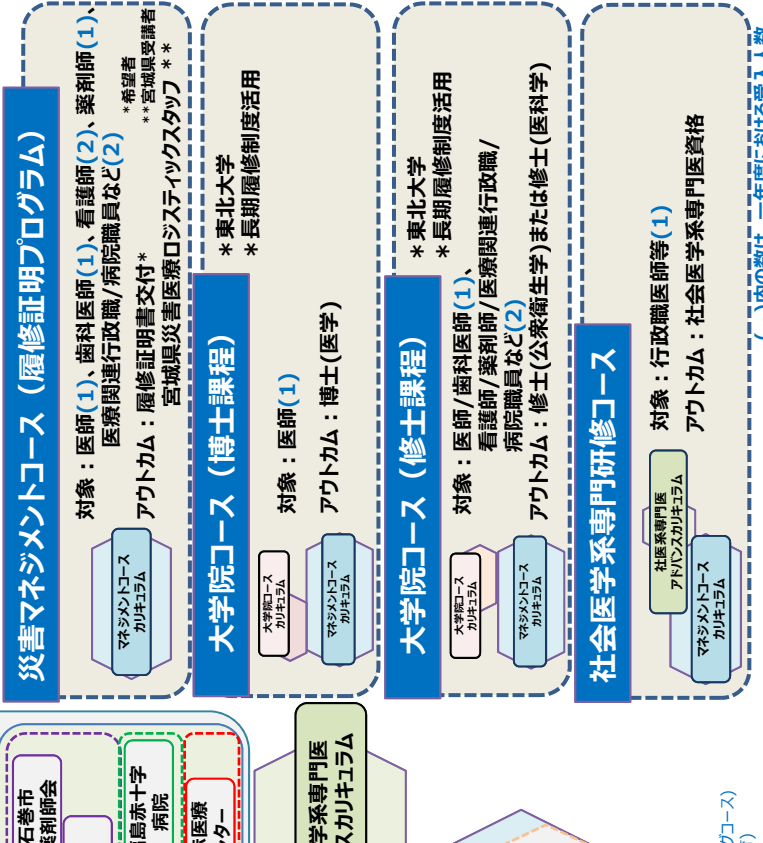
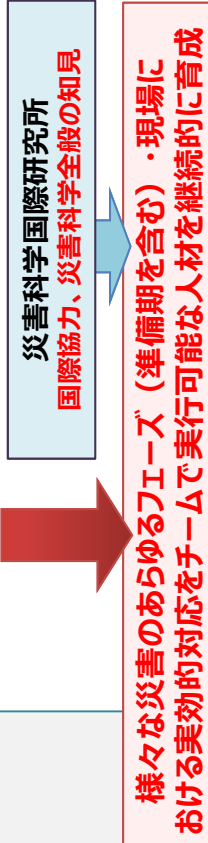
人材育成目標

- 自然災害や人為災害など、あらゆるタイプの災害に、急性期から慢性期までの各フェーズで実効的に災害対応できる人材
- 今後の災害に対するレジリエントな備えについて分析・研究し構築できる人材
- 効率的な後方ロジスティック支援を調整・実行しうる人材
- 多職種の医療人材をチームとして束ねて最大限の力を引き出す能力のある人材
- 他組織と効果的に連携できるコーディネーター能力のある人材

プログラム実施体制



未曾有の災害対応活動に基づき両大学の強みを生かした実践的人材育成プログラムを構築



※1 : Basic Life Support (一時救命処置)
 ※2 : Mass Casualty Life Support (多傷患者への医療対応) 標準化トレーニングコース
 ※3 : Basic Life Support in Obstetrics (病院前産科救命教育)
 ※4 : Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care (病院前外傷教育)
 ※5 : Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosiveの頭文字(化学・生物・放射線物質・核・爆発物の総称)